

1. めざす学校像

一人ひとりが自分らしい生き方で社会に貢献できるよう、豊かな人間性と確かな学力が育つ学校をめざします。

1. 建学の精神「報恩感謝」を大切に、教育理念「教育の目的は人をつくること」に基づく教育を実践することにより、人間的な成長・発展を実現し人格の完成をめざします。
2. 生活・学習の両面において基礎・基本を徹底的に行い、社会的自立にむけ、そのため必要な基盤となる能力や態度を育成します。
3. 一人ひとりが持つ可能性を開花させるため、主体的に生きようとする態度と能力を養います。
4. 地域とのつながり強化し、安全で安心な学校をつくります。

2. 中期的目標

1. 建学の精神「報恩感謝」を土台に、独自性の高い教育を開発、実践します。
 - (1) 選り抜いた内容を実践し、改良を加えます。
指導要領の内容と、独自に開発、改良を加えた学習を組み合わせ実践します。
定期的に学習内容を公開し、教育関係者の意見をとりいれて教育内容を精選、改善します。
 - (2) 学校行事の見直し
子どもの成長の糧となるもの、時代の要請に答えるべき行事を見極め、「何をこそ学ばせるべきか」を熟慮探求します。
子ども自身の活動を重んじ、実行を助け、その結果を常に振り返るように指導します。
2. 基礎学力と基本的生活習慣の育成
 - (1) 生活習慣をしつける方策と実行時期の熟慮と、集団の中で育む方法を探求
「何を」「どの機会に」しつけるかを熟慮し、規範を示すことにより、生涯にわたる自律の意識を育む指導を行います。
意識的に縦割り集団を組織したり、グループ活動を取り入れたりして「みんなでいっしょに」「高学年を敬う」「低学年を育む」を常に考えさせることで、自律の意識を育みます。
 - (2) 基礎学力の徹底
ひとりひとりの興味関心を大切に、学習に自信を持たせるように配慮し、意欲的態度や実行力の基礎を養います。
3. 主体的な生き方の尊重
一人ひとりの興味関心を大切に、だれにも自信を持たせる教育を行います。
道徳教育、人権教育を軸に、互いの個性を尊重しあえる土壌をつくります。
4. 教育環境の充実
学校の美化に全校で取り組みます。
5. 安心、安全な学校づくり
幼稚園や中学校とのつながりを密にし、相互の教育内容を充実させることにより、長期にわたる同じ方向性を持った指導を行います。
自他の命を尊び、安全なくらしを希求する態度を育てるとともに、緊急時の対応を検討することにより、校内の安全性を高めます。
6. 内部連携の強化と募集の充実
幼稚園・中学校との連携を強化し、募集活動を充実します。

自己評価アンケートの結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校協議会からの意見(平成31年1月実施)
<p>評価項目： 教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行った 評価方法： 各項目について、5段階評価を行った 5：大変そう思う 4：どちらかといえばそう思う 3：普通 2：あまり思わない 1：まったく思わない 評価のための資料： 児童（3～6年生）アンケート 保護者（全学年）アンケート 平成30年度小学校教育計画 平成30年度職員会議録 ○児童・保護者アンケート集計・平均（カッコ内は児童の平均）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に入学させて(して)よかった…4.6(4.6) ・学校は学力向上に力を入れている…4.1(4.5) ・指導方法は工夫され、分かりやすい…4.2(4.3) ・主体性、自主性を育む環境が整っている…4.5↑(4.4↑) ・まじめに授業を受けている…4.2(4.1) ・行事は楽しく充実している…4.7↑(4.6) ・学校のきまりはいきまりだ…4.5↑(4.3) ・きまりの指導に力を入れている…4.2(4.4) ・きまりやマナーを守っている…4.0(4.2↓) ・児童会活動や係り活動ががんばっている…4.5(4.6) ・友だちとうまくいっている…4.2(4.4) ・先生と子どもはうまくいっている…4.4↓(4.1↓) ・ケンカいじめに対応する…4.2↑(4.3↑) ・制服、ランドセル、体操服が気に入っている…4.2(4.1↑) ・校内の習い事や同好会は充実している…4.4(4.2) ・校内の施設、設備は充実している…4.2(4.1) ・教室や学校の中はいつもきれいになっている…4.1↓(3.9) ・成績のお知らせやお手紙をきちんと出している…4.1↓(4.7↑) <p>教職員の自己評価・平均値 個性尊重・実行から学べ・明朗と自主の教育方針に基づいて、具体化を図っている…4.2↑ 十分な検討のもと、年間教育計画を立てている…4.0 教務主任を中心として、機能的に運営されている…4.1↑ 全職員研究会・学年会議を、有効に機能させている…3.9↓ 学校経営の財務状況に基づき、健全な運営を行っている…4.0 学校HPの公開掲示板や通信等で、教育活動の情報提供に努めている…4.2 緊急時のマニュアル整備や防災訓練など、安全対策をとっている…4.1↑ 教育活動がしやすく、子どもにとって好ましい環境が整っている…3.7↑ 教職員の適切な勤務実態と健康管理について…3.8↑ 分かりやすい授業の実践に努めている…4.3↑ 学習意欲向上に努めている…4.3</p>	<p>保護者、児童の満足度は継続的に高い水準で保たれている。また、保護者及び児童アンケートの項目と、それぞれの項目に対応する教職員の自己評価を比較しても、大きなずれはみられない。これらを合わせて考えると、小学校の教育内容、指導方法などが保護者や児童に支持されていると考えられる。教員自己評価のうち、「教育活動がしやすく、子どもにとって好ましい環境が整っている」の項目は、相対的に得点が低い。これは教員だけではなく、保護者が連携して押し進めていくべき内容であると考えている。3年間の変化を見ると、得点は徐々に上がっているため、この努力を継続していただきたい。職員の研修に関する項目も得点が低い。これらは研修の質の向上を促したい。外部に研修に出たあとの、情報の共有もまた課題であるといえる。報告等の書式の簡略化など、教職員の負担を減らす工夫によって、職員同士が研修で得た情報を共有し、教育に関する意見交換ができた時間を確保することができるのではないかと検討の価値があると考えられる。保護者との連携は、年を追うごとにポイントが向上している。何でも話し合える良い関係が、教員と保護者の間に構築されている証であろう。児童や保護者のアンケートをみると、友人関係についての項目では、保護者よりも児童の評価が上であることが興味深い。親には伝えなくても児童間では友人関係が良好であるということが見て取れ、安心できることである。行事についての満足度は、保護者、児童ともに高い。継続的に行事内容を刷新していること、他の学校ではまねのできない独自性のある行事（魚つり会や臨海学校、模型飛行機、ヤングアメリカンズアウトリーチなど）が多くあることなどが反映されていると考えられる。今後も、行事の入れ替えを含めた改善に努力してほしい。精選によって、より効果的で、教員の負担も減る効果が出るかもしれない。施設は古いのだが、反面歴史を感じさせてくれるおちついた雰囲気も醸し出している。ICTデバイスの導入なども考えられておられるようだが、卒業生や同窓生が戻ってきたときにホッとできる空間は、今後も守ってほしい。職員自己評価のうち、「職員の勤務実態と健康管理」のポイントが低い。教職員の勤務実態の把握方法を再考し、教職員の健康管理、維持を図る必要があるのではないかと。先ほど述べた業務等の簡略化による教員の教育以外の負担を軽減することも一案であろう。総合的に判断して、教職員の自己評価はおおむね評価通りであり、分析も実態に即したものであると考えられる。今後も幼稚園、中学校との連携を深めて、よりよい学校をめざしていくことを願っている。</p>

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

学力向上に努めている…4. 3↑
社会的マナー・モラルの定着に努めている…4. 3↑
思いやりのある態度育成に努めている…4. 3↑
保護者との連携に努めている…4. 2↑
人権意識向上に努めている…4. 1
自然環境保全の意識向上に努めている…3. 8↑
衛生的で健康な生活の知識技能の指導に努めている…3. 9↑
防災や安全に関する指導に努めている…4. 1↑
主体性を重視した指導に努めている…4. 3↑
読書指導に努めている…4. 0↑
挨拶など礼儀を重んじる態度の定着に努めている…4. 2↑
時間を守るなど、規則を守る態度の定着に努めている…4. 2↓
物を大切に作る心や、美化意識の向上に努めている…4. 0↑
学習の遅れている児童への支援を行っている…4. 1↑
問題を抱えた児童や保護者への相談活動に努めている…4. 2↑
きめ細かな進路相談に努めている…3. 9
活発に、教員間で教育生活指導について、意見交換している…4. 0↓
計画的に、教職員対象の研修が行われている…3. 9
個人の研究・研修を支援する制度が整備されている…3. 5↓
外部の研修会などで得た情報を、校内で共有しやすくなっている…3. 7

自己評価の分析（30年度実施30.12.1）

- 学校運営に関する評価は前年からポイントが下がったものが1と減り、上がったものが5と増えた。
- 教育内容に関する項目は、ほぼ前年と同様の評価であったが4.0以上で高評価である。10, 11, 12, 21, 25
- 生活指導について評価は、ほぼ前年と同様の評価であったが4.0以上で高評価である。13, 14, 22, 23
- 美化意識向上についての評価が4.0以上に上がった。24
- 自然環境保全の意識向上についての評価が3.8と低い。17
- 健康な生活の知識技術の指導についての評価が3.9と低い。
- 進路指導についての評価が若干低い。
- 教員研修に関する評価のうち、「教育生活指導等の意見交換」の項目について評価が高い。「計画的な教職員研修」の項目について評価が3.9と低い。「研究研修支援制度」「情報の共有」についての評価がほぼ前年と同様低い。
- 保護者、児童のアンケートと著しくポイントがずれた項目はない。
- 学習に関する評価は、保護者、児童、教職員ともおおむね満足していることを示している。
- 生活指導について評価は、保護者、児童、教職員ともおおむね満足していることを示している。

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
1. (1) 選び抜いた内容の実践と改良	1. 「指導要領プラス」をスローガンとしたカリキュラム・教材/教具を模索、実践しその効果を検証します。 2. 1～6年生の英語カリキュラムと教材を開発します。	1. 校内研究授業を計画実践し、今後の研究の深化に役立てます。 2. 指導要領にプラスした独自性のある学習プログラム開発します。 1. 現在1, 2年生に行われてきた英語教材を精選し、1年生用に再編します。 2. 現在まで行われてきた3～6年生のカリキュラムと教材を精選し、2～4年生用に再編します。 3. 5・6年生の英語が教科になることに伴い、新たな教材や教授法を研究、開発します。各児童に英語学習機材をもたせ（シャープ英語辞書に入っているアプリ・プレーン）、個別学習を実施します。 4. 複数教員による英語科研究体制を構築します。 5. 1～6年生まで通したモジュール学習の教材の指導法を検討します。	指導力向上に関する教員自己評価を4.3以上にします。(平成30年度4.3)	教職員自己評価(平均): 分かりやすい授業の実践に努めている…4.3 前年度に引き続き、目標を達成しました。 外部より講師(石川晋氏…授業作りネットワーク理事長を招聘し、定期的な研修会を実施したことが効果的だったと思われます。
1. (2) 学校行事の見直しと改良	3. プログラミング教育の教材を開発、研究します。 4. 道徳教材を精選、実践します。 1. 全校行事を改良します。 2. 宿泊行事を見直します。	ICT研を軸とした研究組織を作り、現行の学習にプログラミングを加味した教材を開発し、実践します。 道徳科研究部を中心に、教材を吟味、精選し、評価を含めたカリキュラムの整備を行います。 保護者や児童の意見をもとに、体育会や秋まつり、音楽会などに改良を加えます。 修学旅行の行き先と行程を再考します。カントリーステイの内容の拡充を検討します。春は従来通りの田植え、秋には日帰り遠足で稲刈りを検討します。	保護者、児童アンケートのうち、「行事は楽しく充実している」の評価を向上します。	保護者、児童ともに評価は4.7で、児童の評価は前年度より向上しました。 体育会の観覧席を改良したり、音楽会の入場方法を改善したりしたことが評価されたと考えます。
2. (1) 基本的な生活習慣の育成	1. 児童の自主性・主体性がより発揮できるよう、児童委員会・係活動・縦割り活動、行事の内容を再検討します。 2. 規律遵守の意識レベルの向上を図ります。	1. 縦割り活動や児童会を通じて、児童自身が校内のマナー向上策を考えられるように活動形態を整備し、活性化を図ります。 2. 児童会活動のシステムを、さらによきものになるように検討を加えます。特に児童会主催のボランティア活動を奨励します。 3. 「自律の手助け」を念頭に置き、各家庭及び学級に配布する「しつけポスター」を指針として家庭と学校が協力し、指導を行います。 1. 特に言葉づかいと姿勢について、教員が範を示し児童が見倣うことのできる機会を積極的に増やします。 2. 登下校のマナー向上のため、職員が交替で通学路に立ち、児童の直接指導に当たります。 3. 職員が交代で毎土曜日に四条駅に行き、乗車マナーの指導に当たります。 4. 校外行事の日、校内に訪問者が来る日を『マナー実践の場』と児童に意識させ、実際の場に応用する機会を作ります。 5. 年度初めに各担当が「学校のきまり」を児童と保護者に説明し、理解と協力を求めます。	主体性に関する教員自己評価を4.3以上にします。(平成30年度4.3) 保護者、児童アンケートのうち、「児童会活動や係活動をがんばっている」の評価を向上します。 マナー・モラルに関する教員自己評価を4.3以上にします。(平成30年度4.3) 保護者、児童アンケートのうちしつけに関する3項目の平均(4.0以上)を維持します。	教員自己評価は4.4(前年度4.3)で目標を達成しました。 保護者は4.5で前年と変わらず、児童は4.7(前年度4.6)で目標を達成しました。 縦割り活動の内容を充実させました(ニコニコ班縦割りドッジボールや縦割り鬼ごっこなど) 教員自己評価は4.0(前年度4.1)で目標を達成できませんでした。 保護者は4.1、児童は4.4で、目標を達成しました。 マナーやモラル教育の学級間に格差があり、職員の自己評価が上がらなかったことが原因と考えられます。研修を通じて、藤一を図ります。

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

<p>2. (2) 基礎学力の徹底</p>	<p>1 国語の観点のうち、「書く能力」の向上を図ります。</p>	<p>6. マナー、しつけについての学期目標を定め、児童と教員に周知しその徹底を図ります。</p> <p>1. 国語研究の組織を立ち上げ、研究の軸として機能するように時間と場所を確保します。</p> <p>2. 「書き、まとめる」「書いて考える」「書いて交流する」授業プランを開発、改良し、複数の教員が授業化することによりプランの質的向上を図ります。</p> <p>3. 「書くこと」を意識した授業を全カリキュラムに導入し、児童の書いたノート、WS類を校内研究会で研究の対象にします。</p> <p>4. 統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努めます。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。</p>	<p>学力向上に関する教員自己評価を4.4以上にします。(平成30年度4.4)</p> <p>学力テストの、国語の観点別評価項目「書く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。</p>	<p>教員自己評価は4.2(前年度4.3)で目標を達成できませんでした。</p> <p>3学期に学力テストを実施します。</p>
	<p>2. 国語の観点のうち、「聞く能力」の向上を図ります。</p>	<p>1. 低学年では「読み聞かせ」を重視し、聞き取った内容や感想を発表し合う場を持ちます。</p> <p>2. 「読む・書く」の「繰り返し練習」により、「話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる」ための基礎となる知識、特に語彙力を増やします。</p> <p>3. すべての教科で、聞き取ったことをメモしたりノートに取ったりする活動を増やします。</p> <p>4. 統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努めます。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。</p> <p>5. 学力テスト対策委員会を立ち上げ、月1回基礎学力向上にむけた話し合いを持ち、合わせて模擬テストを実施します。</p>	<p>学力テストの、国語の観点別評価項目「聞く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。</p>	<p>3学期に学力テストを実施します。</p>
	<p>3. 教員の指導力向上をはかります。</p>	<p>1. 多様な指導形態による個に応じた指導法の開発に努めます。</p> <p>2. 学年主任を中核としたOJTを推進し、若手教員の授業力や児童理解力、学級経営力の育成の日常化を図ります。</p> <p>3. 学年内でお互いに授業を公開し合い、授業力向上と学年内での指導方法の統一を図ります。</p> <p>4. 研究授業を増やし、相互の実践を対比することで指導力の向上を図ります。</p> <p>5. 指導方法やアンガーマネジメント、保護者対応などの講習会を実施し、教員の資質向上を図ります。</p>	<p>計画的な教員研修に関する教員自己評価を4.0以上にします。(平成30年度3.9)</p>	<p>教員自己評価は4.1(前年度3.9)で、目標を達成しました。</p> <p>今後も教員の研修を奨励し、研修内容を全職員で共有できるような体制作りを努めます。</p>

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価

【人権・道徳】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
<p>3. 主体的な生き方の尊重</p>	<p>一人ひとりの興味関心を大切に、だれにも自信を持たせる教育を行います。道徳教育、人権教育を軸に、互いの個性を尊重しあえる土壌をつくります。</p>	<p>1. 道徳教育の充実を図ります。教科道徳への移行をふまえ、週1回の道徳を確実に実施するとともに、「考える道徳」「学びあう道徳」の実践を進めます。</p> <p>2. 人権教育の充実を図ります。体験型の講習会や社会見学、人権を意識した校外行事を実施し、人権意識の向上をはかります。</p> <p>3. いじめ等を防ぐために、各学年アンケートを行い、人権意識を育てます。（学年はじめと宿泊行事の前に実施）</p> <p>4. 日記や作文などをもとに、子ども同士の人間関係を推し量り、よりよい学校生活を送ることができる環境を整えます。</p> <p>5. 「学習の記録」及び「指導要録」に記載する個人内評価を検討し、実施します。</p>	<p>人権意識向上に関する教員自己評価を4.1以上にします。（平成30年度4.1）</p>	<p>人権意識向上に努めている…4.1</p> <p>・評価指標である上記1項目は前年度に引き続き目標に達しました。</p> <p>今後も道徳の内容を充実して、より高い評価になるよう努めます。</p>

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価

【施設・設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
4. 教育環境の充実	学校の美化に全校で取り組みます。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の自教室の美化意識を向上させることを、校内全体の美化意識向上につなげます。 2. 児童に持ち物を自主的に整理整頓させ、担任は定期的に指導を行います。 3. 児童会・美化委員会が企画立案する駅前清掃、校内清掃を実施します。 4. 老朽化した設備や災害等によって破損した箇所を修理、改修し、校内の安全性と美化を向上します。 	<p>美化に関する教職員の自己評価を4.0以上にします。(平成30年度4.0)</p> <p>保護者、児童アンケートのうち、「校内の施設、設備は充実している」の評価を向上します。</p>	<p>4.0 で目標に達しました。</p> <p>保護者は前年度と変わらず、児童は前年度より向上しました。各学年、担任に美化意識のばらつきが見られます。改善に努めます。</p>

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価 【環境】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
5 安心、安全な学校づくり	<p>1. 児童の生命を守るために、対策をたて取り組みます。</p> <p>2. 児童の安全に対する意識を向上させるため、特別活動や道徳の時間を使って教育を行います。</p> <p>3. 防災対策を強化します。</p>	<p>1. 一般防災に関する対策</p> <p>(1) 防災マニュアルに沿った避難訓練、マニュアルの検討を行います。</p> <p>(2) マニュアルが機能するよう、避難通路や防災用具を定期的に点検します。</p> <p>(3) 緊急集団下校マニュアルに添い、円滑な保護者への引き渡しを目的とした訓練を行います。</p> <p>(4) 緊急時の一斉配信システムを整備します。</p> <p>(5) 宿泊を伴う校外行事では、最初に避難経路を児童に知らせ、必要に応じて避難訓練を行います。</p> <p>2. 不審者等の危機管理</p> <p>(1) 不審者対策危機管理マニュアルにそって危機レベルごとの迅速な対応ができるよう、職員の訓練を行います。</p> <p>(2) 不審者対策として、校内に防犯カメラを設置し、児童の安全確保をよりいっそう強化します。</p> <p>(3) 不審者対策危機管理マニュアルを作成し、児童に危害が及ぶ危険性を段階的に設定します。</p> <p>1. 「自分のいのちは自分で守る」意識を徹底させ、教職員とともに臨機応変に避難できる子どもを育てます。</p> <p>2. 外部組織と連携し、安全意識向上のための教育を行います（四條畷警察による安全教室、NTTによる安全モラル教室 大阪府少年サポートセンターによる非行防止教室 大阪府警による非行防止教室等）。</p> <p>1. 火災、地震等の防災係を組織します。</p> <p>2. 防災マニュアルを作成し、マニュアルに沿った避難訓練を実施します。</p>	<p>「防災や安全に関する指導」の教員自己評価を4.1以上にします。（平成30年度4.1）</p>	<p>防災や安全に関する指導に努めている…4.0</p> <p>衛生的で健康な生活の知識技能の指導に努めている…3.6</p> <p>緊急時のマニュアル整備や登下校 チェックや防災訓練など、安全対策を十分とっている…4.3</p> <p>防災に関する職員の自己評価のうち、安全対策に関する項目は目標を達成しましたが、指導についての項目は目標に達しませんでした。防災係を中心として、児童への防災指導内容を再検討する必要があります。</p>

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価

【募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
6. 内部連携を強化し募集活動を充実	幼稚園・中学校との連携を強化し募集活動を充実します。	<p>幼稚園との連携</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。 2. 保護者対象の公開授業や説明会を実施します。 3. 幼稚園の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。 4. 児童による園児との交流の場を設け、小学校の取り組みが園児に伝わる機会を増やします(本読み、もの作り、音楽交流)。 <p>中学校との連携</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。 2. 中学校の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。 3. 内部進学の見学指導を強化します。 4. クラブ体験や授業体験を設け、中学の活動が小学生に分かる機会を増やします。(運動クラブ体験、文化クラブ体験、理科授業体験、中学出前授業) <p>募集活動を検討します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童募集活動の課題を抽出し、その対策を検討します。 2. 入学を検討している保護者に対する、校内外入試説明会・塾説明会・体験授業の方法を検討します。 3. 広報媒介を検討します。 4. 私学展等の公開説明会での説明方法を改善します。 5. 外部幼稚園への広報活動を拡充し、希望する園で説明会を実施します。 	<p>30年度は、幼稚園(年長121名)内部進学者39名(32%)でした。今年度は、124名の年長園児のうち、内部進学者50名以上(40%)を目標とします。</p> <p>30年度は、中学内部進学者50名(52%)でした。今年度は、内部進学者70%以上を目標とします。</p> <p>30年度は、入学者92名でした。募集定員90名は、充足しました。今年度も募集定員が充足するように努めます。</p>	<p>内部進学者は47名で、目標に達しませんでした。</p> <p>内部進学者は60名(63%)で目標に達しませんでした。</p> <p>令和元年度は、入学者90名でした。募集定員90名は、充足しました。</p>